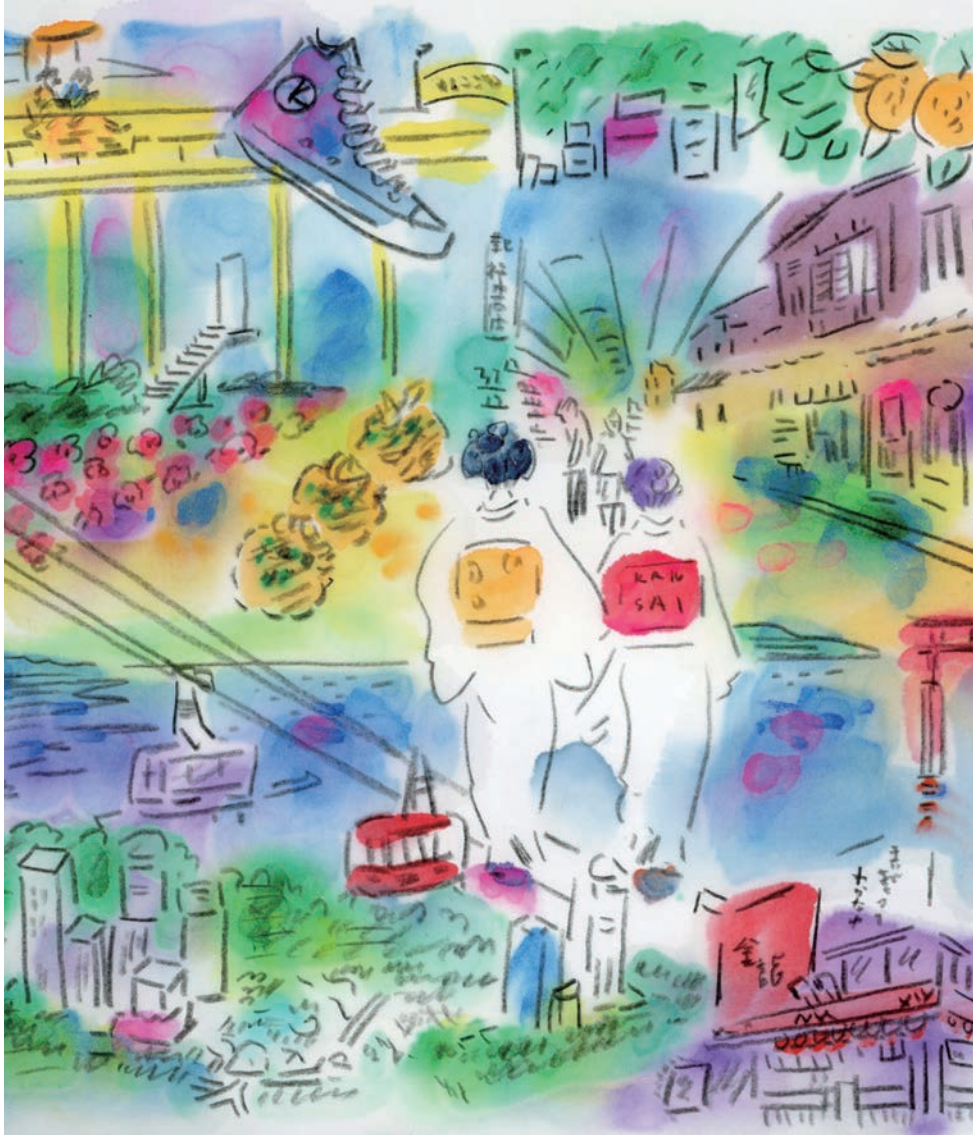
一般社団法人 コンサートプロモーターズ協会

A.C.P.C. navi

All Japan Concert & Live Entertainment Promoters Conference

AUTUMN 2025 VOL.57

©2025. A.C.P.C.



中西健夫 ACPC会長連載対談 第41回ゲスト 西高辻信宏 太宰府天満宮 宮司

伊神悟 ACPC副会長連載「伊神が行く!」第6回 関西

表紙の言葉

連載「伊神が行く!」の今号は「関西編」です。関西エリアの会員社の皆さんから、毎号同様、地元でお薦めのスポット、飲食店などを挙げていただきました。関西といえば今年、大阪・関西万博に世界中から多くの観光客が訪れましたし、食い倒れ必至の飲食街からユニバーサルスタジオまで、賑やかで華やかなイメージがあります。そのイメージ通りのスポットもいくつか挙がりましたが、意外な傾向も見えてきました。

大規模な商業施設でも、訪れる理由は「緑が多いから」だったり、最先端のアミューズメントパークではなく、レトロな雰囲気でゆっくりと時間が流れているような公園の魅力を語る方がいたり、大阪や京都でも中心部から少し離れた「人が少ない場所」がお気に入りだったり……皆さんが「癒し」を求めていることが伝わってきました。お話しを伺いながら、「関東編」の取材の際に在京プロモーターの方々から同じような傾向を感じたことを思い出し、東西の違いはあれど、大都市で忙しく働く皆さんには共通項があることを知りました。

表紙のイラストも、小池アミイゴさんに「賑やかで華やか」ではなく、癒しが伝わる穏やかなテイストで仕上げていただきました。この柔らかい質感は、原画を和紙に描き、着色がまだ乾ききっていないうちにスキャンをとることで醸し出されています。

イラストレーション：小池アミイゴ

一般社団法人 コンサートプロモーターズ協会
A.C.P.C. navi
AUTUMN 2025 VOL.57

4 VOL.57 刊行のご挨拶　中西健夫 ACPC 会長

5 中西健夫会長連載対談
第41回 ゲスト＝西高辻信宏（太宰府天満宮 宮司）

10 連載　伊神が行く! HOMETOWN ENT.NIGHT＆DAY
伊神悟 ACPC 副会長　第６回＝関西
川下太雅、島野翼、秋山泰亮（キョードー大阪）× 伊藤大、中村果歩（グリーンズコーポレーション）×
波多野亘、水上真凜、安枝伸（サウンドクリエーター）× 梶ふふみ（清水音泉）× 芋縄飛悠吾、
中島菜摘（ソーゴー大阪）× 黒木あい、香山幸寛、福井佑芽（阪神コンテンツリンク）

18 ACPC 関西支部会の歩み

21 連載コラム
「帰ってきた TALKING BLUES」
鏡 孝彦（ACPC専務理事）

22 オンライン座談会　著作権担当者座談会
藤原沙希（マウントアライブ）× 山田実咲（ネクストロード・プロダクション）×
三浦布由子（ホットスタッフ・プロモーション）× 栗生亜矢子（ページ・ワン）

27 「KOREA SPOTLIGHT 2025@JAPAN」をACPCが後援

28 ACPC 寄附講座通信

32 ECSA Lounge

33 オンラインカジノ違法性周知に関する
啓発活動に対して警察庁より感謝状贈呈

34 navi ARENA

A.C.P.C. navi VOL.57 刊行のご挨拶

日頃より本会の活動にご理解とお力添えを賜り、厚く御礼申し上げます。

半年間にわたって開催された「大阪・関西万博」が、多くの人々の熱気のなかで閉幕しました。多様な価値観や文化から得た知見や経験をこれからどのように未来へとつなぐのか考えていくことが大切になっていくと思います。

私たちの仕事においても守り、継承していく意識は常に欠かせません。その方法は一つではなく、他の業界や地域の取り組みから学べることも多々あります。

今号では、太宰府天満宮 宮司 西高辻信宏様をお迎えした対談の模様を掲載しています。地域社会とつながりながら、文化や伝統と新しさの両立を模索していく姿勢のなかに、文化をいかに身近なものとして残していくかのヒントが散りばめられています。

また、2022年に発足したACPC関西支部会のこれまでの歩みを振り返るとともに、最新の活動についても紹介しています。活動の積み重ねや成果を通じて、地域で連携を深め、共通の課題に向き合ってきた足跡を感じていただけると思います。

さらに、弊会が長年にわたり継続している「ACPC寄附講座」に関する新連載もスタートします。次代を担う学生と音楽業界をつなぐこの活動も、文化を未来へと継承する大切な取り組みの一つと言えるでしょう。

過去を敬い、今をつくり、未来へと手渡していく。それは特別な誰かが担うものではなく、私たち一人一人が日々の仕事や歩みのなかで考えていくことなのだと思います。それはやがて誰かの力となり、未来の「歴史」になっていくはずです。そんな想いを込めて、第57号をお届けします。

一般社団法人コンサートプロモーターズ協会
会長　中西健夫

中西ACPC会長連載対談 Vol. 41

ゲスト
西高辻信宏 太宰府天満宮 宮司

地域に根ざし、伝統と新しさを両立する太宰府天満宮に学ぶ、文化と芸術の知恵

撮影：小山昭人（FACE）　収録日：2025年10月21日

今号の中西会長連載対談が行われたのは、太宰府天満宮（福岡県太宰府市）です。菅原道真公がお鎮まりになる御墓所の上に御社殿を戴き、全国天満宮の総本宮として知られる地を中西会長が訪れた理由は――太宰府天満宮では、これまでライブの開催を含めたアーティストとのコラボレーションが行われ、境内などに現代美術を展示するアートプログラムも実施されています。文化・芸術・芸能における様々な試みによって、地域に根づいた存在であり続けているのです。太宰府天満宮にある樹齢 1500 年を超える樟（くすのき）の前で写真を撮影した後、対談はスタート。全国のコンサートプロモーターにも参考になる、地域とともに歩んでいくためのヒントを、菅原道真公から数えて 40 代目に当たる西高辻信宏宮司と探しました。

言葉から伝わる思い

中西　太宰府天満宮には菅原道真公が祀られていて、学問の神様というイメージがありますが、文化や芸術の神様でもあるそうですね。

西高辻　菅原家はもともと学者の家系で、道真公のお父様もお祖父様も文章（もんじょう）博士という学問の最高位の役職をお務めになりました。道真公自身も 33 歳の若さで文章博士になられ、政治家・詩人としてもご活躍され、漢詩や和歌も創作されていたのです。詩歌というものは、つくり手の言葉に対する思いが強く表れます。道真公がつくられた作品はほとんどが現存していますので、後世の人々にもその思いが伝わっているのだと思います。また、道真公は中国の作品を踏まえつつも、自らの言葉で漢詩の表現をされていて、内容的にも技術的にも最高峰のものであると評価されていますので、今日まで文化の面でも崇敬を集め続けているのではないでしょうか。

中西　現在は宮司が音楽をはじめ文化・芸術にも関わっていらっしゃいますが、サカナクション山口一郎さんとの交流（太宰府天満宮の夏の天神まつりで「新宝島」「怪獣」を歌唱、太宰府天満宮案内所で流れるオリジナルサウンドも制作）は、何がきっかけで始まったのでしょうか。

西高辻　もともと山口さんのことは存じ上げていましたけれど、お会いするようになったのは、武蔵野美術大学教授でインテリア・デザイナーの片山正通（ワンダーウォール代表）さんがきっかけです。片山さんは当宮が兼務している宝満宮竈門（ほうまんぐうかまど）神社のお守り授与所をデザインしてくださった方ですが、サカナクションのライブに行かれて感動したそうで、2015 年に「山口さんを太宰府に連れて行きたい」とおっしゃったんです。ちょうど、ももいろクローバーＺのライブを都府楼跡（大宰府政庁跡）で開催した頃で、山口さんはそのタイミングでいらっしゃるはずが難しくなってしまって、後に改めて来てくださいました。天満宮をはじめ、太宰府の史跡そして福岡市内へ私が運転する車で足を伸ばして、2 人で長時間お話したのが最初でしたね。同じ 1980 年生まれという共通点もありましたが、言葉にも重きを置かれている方だということが分かって共感しました。

中西　確かにサカナクションの楽曲は詞も素晴らしいですよね。

音楽とのコラボの広がり

西高辻　その後、山口さんは太宰府天満宮で 1 月 7 日に行われる「鬼すべ神事」という火まつりに来てくださり、ご自分でも松明を担いで参加されるようになりました。いらっしゃった時に日本アカデミー賞の最優秀音楽賞受賞（主題歌「新宝島」を含む映画『バクマン。』の音楽に対して）の一報が入り、「自分にご縁がある」と感じてくださったようです。毎年 7 月に当宮の境内で開催する「夏の天神まつり」では 3 年前から、昔ながらの「太宰府音頭」とともに、「新宝島」で夏越しおどりを踊っているのですが、去年は山口さんが飛び入りで参加し、ステージで「新宝島」を歌ってくださったんです。今年はリクエストに応えて「怪獣」も披露していただきました。伴奏の和太鼓は太宰府天満宮の職員が叩いています。

中西　普通に考えればあり得ないコラボレーションですね。

西高辻　山口さんとの 10 年近いお付き合いの中で、ライブに何度も行かせていただいて、どれだけ真摯に音楽に向き合っているか、感じ取ることができました。幼い頃より詩や文学に触れてきた経験が、山口さんの基礎をつくりあげたようで、菅原道真公と通じるものを感じます。それで太宰府天満宮の案内所の四季のサウンドを、山口さんが主宰する株式会社 NF にお願いしたり、御本殿の 124 年ぶりの大改修に伴い設置した、藤本壮介さん建築・デザインの仮殿の音響監修にも関わっていただいたんです。

中西　僕は山口さんとの仕事が多いわけではありませんが、とても感謝していること

▶太宰府天満宮では現在、重要文化財である御本殿の大改修のため、参拝者を迎えているのは仮殿。最先端の屋上緑化技術を導入し、屋根の上に豊かな木々が溢れる。建築家・藤本壮介氏による斬新なデザイン。参拝は令和８年５月上旬まで

があるんです。チケットの高額転売が問題になった時や、コロナ禍において、山口さんは音楽業界を代表して積極的に発言してくれたんです。自分達のコンサートができない現状を彼が切々と訴えてくれました。国会議員の先生方もいらっしゃる場で、記者会見に出てくれたりもしました。本来アーティストはそういう場に出たがらないのが当たり前ですが、彼が「自分ができることがあったらやりたい」という姿勢を見せてくれて、我々も心から勇気づけられました。

地域の誇り、芸能の役割

中西　ACPC は全国組織で、各地域にコンサートプロモーターの仲間達がいます。地域社会にどう根づいていくのかは我々にとって大きなテーマですが、太宰府天満宮と地域社会の関係性についてお話を伺わせてください。

西高辻　太宰府天満宮はこの地域に根づき続け、1120 年を超えて菅原道真公をお祀りし、祈りを捧げる神事を行っています。神事には神職が司るものもあれば、地域の方にお手伝いをいただき、ご参加いただくものもあります。そういった日常の中で、非常に深い関係性を築かせていただいていますが、何より大切なのは地域の皆さんに神社に対する誇りを持っていただき、地域に対して思いを強く持っていただくことです。そして我々もそのお気持ちをとても大事にしています。現在は全国、そして海外からも含めて年間 1 千万人の方にお参りいただいているのですが、その根幹にあるのは地域の方とのつながりですし、それがあるからこそいらっしゃった方にも喜んで、元気になって帰っていただけるのだと思っています。

中西　一説によるとお祭りは日本で約 30 万あると言われているそうです。大変な数だと思いますが、一方でお祭りをはじめとする伝統行事の担い手が少なくなっているという現実もありますよね。

西高辻　昔は自分の住まいを移すことが今ほど盛んではなく、その地域で一生暮らす方も多かったので、地元の方々に支えられながらお祭りが残ってきたのだと思います。またお祭りなど伝統行事と地域をつなぐために、芸能も重要な役割を果たしてきたのではないでしょうか。お祭りは神事だけで終わるのではなくて、その後に直会（なおらい）といってお酒を皆で一緒にいただく場があり、芸能と結びつくことがとても多かったのです。地元ならではの芸能が神社に奉納されることもあります。太宰府天満宮でも稚児舞という子どもの舞いが奉納されたり、竹を束ねた「ささら」というものを鳴らして音を奏でる、原初の音楽と呼べるようなものが今も残り、捧げられたりしています。地域社会と神社、そして芸能の間には不可分な関係が築かれてきたのだと思います。

伝統と新しさの両立

中西　太宰府天満宮を訪れる海外の方は、何を目的に足を運ぶのでしょうか。

西高辻　太宰府天満宮にお参りされる方のうち、海外の方は 2 割から 3 割くらいではないかと思います。日本に来ても都市部だと日本らしさを感じることがなかなかできませんので、歴史と文化を感じるために訪れてくださるのでしょう。日本の神道、自然との関わりも感じたいと。

中西　日本の伝統文化だけではなく、斬新な仮殿のデザインやアートプログラムを見ると、海外の方はその新しさに驚くのではないでしょうか。

西高辻　太宰府天満宮の核となるのは祈りの部分ですが、そこをしっかりと守りながら、時代に合わせた形を模索する必要があると思います。とにかく、まず興味を持っていただき、触れていただかないと何も始まりません。あまりにも現代と乖離しすぎていると、今を生きる方々に伝わりません。もちろん本来、当たり前のようにあった古典、伝統を現代の生活の中にきちんと残す努力も必要です。

中西　僕は落語でそれを感じるんです。例えば立川志の輔さんの現代落語を聴いて感動した人が古典も聴く。両方聴くことによって、さらに世界が広がるわけです。現代と古典を両立させることは本当に大事ですよね。

西高辻　これは海外の方ということではありませんが、ライブのためにいらっしゃって、前後の時間で足を運んでくださる場合も多いと思います。コンサートグッズを持った方をお見かけすることがありますから。私達も福岡ドームやマリンメッセ福岡でのライブの開催予定を把握しておくようにしています。

中西　宮司から今の日本のライブ、コンサートの環境はどのように見えていますでしょうか。

西高辻　昔ほどライブに気楽に行けなくなったなとは感じています。人気のアーティストだとチケットを取るための倍率も高いですし、まずファンクラブに入っておかないといけないですよね。気軽にリアルな音楽に触れる機会が少なくなってきているのかなと。地方にいると特にそれを実感します。

中西　本当にそうですよね。色々な意味で電子チケットの普及は必要ではあるのですが、誰かにチケットをプレゼントしたり、当日に「一緒に行こう」と誘ったりはできなくなりました。コンサートをプロモートする我々自身が進めてきたこととはいえ、自分で自分の首を絞めているんじゃないかなという老婆心を拭いきれないんです。

西高辻　大規模なコンサートはチケットが取れない一方で、福岡ではジャズのライブハウスがほとんどなくなってしまって……私はジャズも好きなので残念です。東京だと小規模なライブハウスも残っていると思いますが……。

中西　ジャズは大事だと思うんですよ。飲食と結びつきやすいですし、ライブの規模は小さくても文化的な広がりがあると思うんです。

西高辻　音楽に付随して様々な文化が結びつく可能性は大事にしていただきたいですね。

PROFILE
西高辻信宏
にしたかつじ・のぶひろ

1980年、福岡県太宰府市生まれ。東京大学文学部歴史文化学科（美術史学）卒業。國學院大學大学院文学部神道学科で神職資格並びに修士号取得。2005 年より太宰府天満宮奉職。2012 年、太宰府天満宮宝物殿館長、同文化研究所所長就任。2019 年、太宰府天満宮宮司を拝命。

※本誌に掲載された座談会はダイジェスト版です。完全版はACPCホームページをご覧ください。

伊神が行く！

全国へ行く
地元で語る
Vol.6 関西編

HOMETOWN ENT. NIGHT & DAY

撮影：小山昭人（FACE）収録日：2025年9月8日

自身も中部地区のコンサートプロモーターである伊神悟ACPC副会長が、全国会員社の皆さんのもとに馳せ参じる連載「伊神が行く！」。お伺いする各エリアのライブ・エンタテインメントをともに考え、時には未来を熱く語り、時には愚痴をこぼし合いながら交流していきます。第6回のエリアは「関西」。大阪のサウンドクリエーター会議室に、6社のプロモーターの皆さんにお集まりいただきました。今年の関西地区は、5月に京都でMUSIC AWARDS JAPAN 2025が行われ、4月から10月まで大阪で大阪・関西万博が開催。ACPC関西支部会が両イベントの制作などに参加したこともあり、各社のスタッフの皆さんは例年にも増して多忙な日々だったと思います。また観光地としても世界中から人気を集めていることもあり、参加の皾さんから、プロモーターならではの目線で「今、関西で注目のエリア」「ライブの前後に立ち寄れるスポット」をプレゼンテーションしていただきました。大阪だけではなく、京都や神戸、びわ湖周辺まで登場スポットは広がります。

キョードー大阪

（左から）島野翼／川下太雅／秋山泰亮

ディープな飲食街に突撃

観光地では、現在はまだ開発中で、2027年に全体開業する予定の**「グラングリーン大阪」**に注目しています。ホテルやレストラン、ショッピングモールなどがある商業施設なのですが、大阪のど真ん中、梅田にあるにもかかわらず、緑がいっぱいで、自然を感じることができる空間になっています。リリース記念イベントなどでも利用させてもらっていますね。

飲食店では**「冨紗家（ふさや）」**がお薦めです。もし、足を運んだら豚もやしせいろ蒸し鍋から始まり、メインの創作お好み焼きを楽しみつつ、最後にいもっ子アイスを頼むのを忘れないようにしてください。アーティストの方もよくお連れしますが、いもっ子アイス目当てで「冨紗家」へ行きたいとおっしゃる方も多いです。（川下）

僕は京都出身なので、大阪のことはそんなに詳しくなく、行ったことのない場所も多いんです。先日「ここで飲んだことないな」という話になって、東京から来た音響さんをはじめスタッフチームと韓国料理で有名な鶴橋の隣、**「玉造（たまつくり）」**へ飲みに行ってみたんです。かなりディープな感じのお店が多くて、ちょっと怖いエリアではあるのですが（笑）、知らない飲み屋を開拓したいなという気持ちもあり、行ってみたら楽しめました。

「天神橋」にはファンタジックなカフェがあって、面白いんです。FM802が近いので番組収録の合間にアーティストの方をお連れすることもあります。**「CAFE TOKIONA」**は内装がヨーロッパ風のメルヘンな感じで、小物がお洒落だったり、メニューが童話の本みたいなスタイルになっていたり、テーマ性があって楽しいんですよ。お連れした方々は皆さん満足してくださいます。（秋山）

「大阪で飲食店といえば」と質問されて、パッと思い浮かぶのが**「インディアンカレー」**。ケータリングでもお世話になっています。それと大阪・関西万博が実際に行ってみて「ああ、いいイベントだな」と思いました。（島野）

伊神のひと言

大阪のディープなエリアに足を踏み入れると、東京とは違うカッコよさがあるなあと思います。今は首都圏集中の問題があって、全国的に東京に出て行きたい、東京で働きたいと考えている若い人が多いのも事実でしょう。そうなると各地の個性が失われてしまうんじゃないかと僕などは心配してしまうので、大阪がカッコよくて、元気がいいと、うれしいんですよ。

グリーンズコーポレーション

(左から) 中村果歩／伊藤大

定番のユニバ、今年は万博

大阪のエンタテインメントを語る上で、**「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」**は欠かせないなと思います。子どもの頃は、アトラクションを楽しみに通うという方が多いと思いますが、大人になったからこその楽しみ方もあるはずなので、いつまでも色褪せない場所になっていると思います。個人的には好きなデザイナーさんがユニバーサル・スタジオ・ジャパンのキャラクターとコラボをしていて、最近はグッズを買うことも目的になっています。Zepp Osaka Bayside が近いこともあって、ライブ前に若いお客さんが立ち寄ることも多いでしょうし、出演アーティストでもリハの合間に抜けてフラッと足を運ぶ方もいるようですね。

飲食店も大阪らしいベタな答えになりますが、心斎橋にあるたこ焼き屋**「踊りだこ」**を挙げたいと思います。私は夕方の軽食で寄せてもらうことがあるのですが、小さいサイズのタコがまるまる1匹入っていて飛び出しているんです。見た目のインパクトも充分あって、ボリュームもたっぷりで「ええなあ」と思います。(伊藤)

今年はやっぱり**「大阪・関西万博」**でしょう。通期パスを買っていて、同じようにパスを購入した会社の仲間何人かで行ったりしています。色々な国のご飯が食べられていいですね。私にとってはグルメ万博です。

「天満」や**「京橋」**で飲み歩きするのも楽しいですよ。ディープな飲み屋街に、小さな居酒屋がたくさんある街です。京橋は大阪城ホールからも歩いて行けますし、ライブ終わりに寄るとより楽しいと思います。(中村)

伊神のひと言

うちの会社の面接の時に、大阪出身者から「大阪の女子高生のほとんどがユニバの年間パスポートを持っている」という話を聞きました。今回の取材中にその真偽を確かめたところ、大阪のプロモーターの皆さんが口々に「本当に持っています」と答えたので、事実が裏付けできました。なんでも昔は今より料金も安くて、数回行けば元が取れたとのこと。うらやましいですね。名古屋にもジブリパークやレゴランドといったテーマパークがありますが、ユニバの突き抜けた印象のエンタテインメント性は「さすが大阪」という感じがします。

サウンドクリエーター

(左から) 安枝伸／水上真凜／波多野亘

『国宝』のロケ地、京都の穴場

映画『国宝』は京都でもロケをしていて、襲名披露で人力車に乗っているシーンや登場する神社は京都の北、**「今宮神社」**や**「上七軒」**で撮影されているんです。最近は京都も大阪も観光客で溢れていますが、あの近辺は地元の人しか歩いていなくて、とはいえレンタルサイクルで金閣寺などの観光地にもすぐ行けます。ご飯屋さんの美味しい店が多いエリアでもあります。『国宝』の聖地巡礼で、南座やびわ湖近辺はすでに人が増えているようですが、京都の北エリアはまだそんなに知られていなくて穴場といえると思いますね。

食全般の定番でいえば、大阪では串カツ、たこ焼き、お好み焼き、うどんはやっぱり美味しいですし、京都では和食のレベルが高いと思います。それ以外で大阪はカレーやラーメン、京都は町中華やパン屋の名店が実は多いのでお薦めです。差し入れの定番は**「中村屋」**のコロッケ。大阪の差し入れは、例えば豚まんなど温かくないと味が落ちてしまうものも多いですが、ここのコロッケは冷めても美味しい。超有名です。(波多野)

新大阪駅の1階にある**「モジャカレー」**は、刻みネギが山盛りに載ったカレーで、めっちゃ辛いんですけど、パッと食べてパッと帰れます。**「たぶっちゃん」**は大阪の日本橋にある担々麺の美味しいお店です。いつも夜中まで行列ができていて、店内も狭いので、打ち上げの締めにはなかなか使えないのですが……。

それとやっぱり今年は**「大阪・関西万博」**。万博記念公園にある**「太陽の塔」**も好きな場所です。(水上)

僕は大阪に大学入学とともに出てきて、13～14年住んでいますが、**「城山オレンヂ園」**は大阪で行った中で一番ヤバいと思った施設です（笑）。ホームページを見るとヤバさが伝わると思います。知っている人は少ないと思いますし、僕も10年くらい行っていませんが、とにかく謎の珍スポットなんです。できることは……オレンジを取ることやザリガニ釣りくらいですかね。宿泊施設というか雑魚寝ができる場所があって、子供から大人まで楽しめるとは思います。大阪に何店かある**「こがらや」**はうどんのお店ですが、ぜひ大きい唐揚げと親子丼を食べてほしいです。(安枝)

プロモーターが選ぶ大阪たこ焼き NO.1店は？

たこ焼きの話が多く挙がりましたが、取材中に「たこ焼き大阪 NO.1 店」を決めようということになりました。大阪の中でも地域によって代表的なお店は違うようですが、今回「暫定 NO.1」に決まったのは「わなか」。外はカリッと、中はフワフワ、トローリのたこ焼きとのこと。その他、名前が挙がったのは「甲賀流」「元祖どないや」「やまちゃん」「たこ家道頓堀くくる」などでした。

清水音泉

梶ふふみ

神戸の癒しの場、逃げ場

神戸にある**「須磨浦山上遊園」**は、1959年開園で、昔ながらの風情があります。ただのカゴのようなロープウェイといいますか、一人乗り用のリフトといいますか、不思議な「カーレーター」という乗り物で山頂へと向かうのですが、第一に人が少ない(笑)。大阪はほんまにどこへ行っても人が多いですし、私達は人に会うことが仕事のような毎日ですので、ある種の癒しの場、逃げ場としてお薦めです。展望台から天気がいいと海が見えるとはいえ、取り立てて絶景ではなく、淡路島もギリ見えない。喫茶店があっても、コーヒーが絶品というわけでもない(笑)。できることといえばハイキングくらいで、大きく感動するようなことはないと思いますが、入場料も安いですし、気楽に立ち寄れる場所ですね。

神戸元町商店街の**「柿本商店」**は1968年創業で、店内には6000足近くの新旧のコンバースが並んでいて、コンバースマニアから「聖地」と呼ばれています。ここでしか手に入らない限定モデルや海外モデルもあるそうです。かといって敷居が高いわけではなく、もともと元町高架下、元高にあったこともあって、かなりディープで面白いお店ですね。ライブハウスも近くにあるので、ついでに足を運んでもいいと思います。(梶)

今回の取材には、オブザーバーとして上田博之理事(サウンドクリエーター代表取締役社長/写真左)、鎌孝彦専務理事(グリーンズコーポレーション代表取締役社長)に同席いただきました

検証:大阪は打ち上げが多い説

伊神　打ち上げが多いのは本当でしょう。まず単純に東京からたくさんのアーティストが来て、公演数が多い。大会場の公演もあれば、ライブハウス規模のものもある。それとアーティストから見ると、大阪や福岡は楽しそうに見える(笑)。食い倒れの街と呼ばれるくらいなので、スタッフ含めてやっぱり打ち上げはやりたいと思うでしょうね。大阪独特のワクワク感がありますから。

サウンドクリエーター・波多野　東京の公演だとスタッフが自分達の車で来る場合も多くて、打ち上げができないという話を聞きますね。だったらツアーの中でも毎回足を運んでいただける大阪では、打ち上げをやろうということになるのかもしれません。新幹線の距離的に、ギリ終電で帰ろうと思えば帰れるわけですが、泊まりのほうが多いと思います。

伊神　どのホテルからも歩いて飲みに行けますしね。他の地域だと駅前のホテルから繁華街まで多少の時間がかかる場合が多いでしょう。それと各地ではコロナ以降、遅くまで営業しているお店がなくなってしまいました。

清水音泉・梶　そこは大阪も同じです。だいぶ減りましたね。

ソーゴー大阪

(左から) 中島菜摘/芋縄飛悠吾

びわ湖でも人が少ない場所

びわ湖周辺のスキー場では、びわ湖バレイが有名だと思いますが、僕が好きな**「びわこ箱館山」**は、人が少なく、ゆっくり景色を眺められて、自然を満喫できるところがいいんです。大阪に住んでいると人が多くて、仕事の現場でもたくさんの人達に囲まれているので、人が少ない場所を選んでしまうんですよ。

グリーンズの中村さんも挙げていた「天満橋」も好きですが、もう一箇所、東大阪にある**「布施」**を挙げたいと思います。飲み屋さんに上の年代の方しかいないエリアです(笑)。めちゃディープではありますが、下町の雰囲気を感じられて好きなんです。(芋縄)

「蛸之徹」は「グラングリーン大阪」にも出店しているお店。大阪の家庭には、たこ焼き器がだいたいあって、普段から自分で焼いていますが、ここはお客さんがセルフでたこ焼きを焼けるお店です。コンテンツを撮る上でとても映えるお店で、撮影でも利用しました。韓国のアーティストの方は喜んでくださって、楽しくワイワイしていました。ある程度人数がいれば貸し切りもできます。

個人的には**「グラングリーン大阪」**内にある**「うめきた公園」**も気に入っています。夜に行くとビルの灯りなどが綺麗で落ち着きますし、日中に散歩するのも好きです。(中島)

検証:やっぱり大阪のライブは盛り上がる?

伊神　大阪のお客さんの反応がいいのは確かでしょう。実際に「他の地域に比べて盛り上がる」という話を耳にします。アーティストからも「大阪では客席からダイレクトに反応が返ってくる」という感想をよく聞きますよね。同じ大都市でも東京はおとなしいじゃないですか。東京は色々な地域から上京した人達の集まりですから、周りの目を気にするところがあるんじゃないでしょうか。大阪も広島や福岡から出てきている人がいると思いますが、やっぱり関西特有のノリの良さを持った人が多い気がします。

サウンドクリエーター・波多野　大阪のお客さんは結構ミーハーなところがあると思います。新しいものというより、流行っているものが好き。新しい音楽に対する反応は、東京や福岡のほうが早いと思います。だからアーティストも、新しすぎる音楽性を持っている場合、大阪で浸透するにはある程度時間がかかりますね。

伊神　ああ、そこは名古屋も同じですね。

阪神コンテンツリンク

(左から) 香山幸寛／福井佑芽／黒木あい

「グラングリーン大阪」に4票目

「グラングリーン大阪」はオープンしてまだ1年と新しいので、知らない方も多いと思いますが、憩いの場となりつつありますね。噴水がある場所に芝生が広がる**「うめきた公園」**エリアは、ファミリーが集まって子ども達がプール代わりにして遊んでいたり、デートコースにもなっています。「グラングリーン大阪」には**「タイムアウトマーケット大阪」**（17の飲食店と2つのバー、総席数約800）と呼ばれるエリアもあって、大勢で立ち寄っても席が見つかりやすくて便利。お酒を飲む人・飲まない人、お腹がすいている人・そうでない人が一緒でも気兼ねなく過ごせるのがポイントです。ここの広々とした開放感は、東京でもなかなか味わえないと思います。

ランチは鴨川のすぐ近く、京都の**「120g banh mi Kyoto」**。京漬物バインミーが美味しいです。バインミーはベトナムで食べられているバケットのサンドイッチですが、普通、パンが硬く、具がたくさん入っているので食べにくいんですけれど、ここはバインミー用にフランスパンを焼いているので、食べやすい。京漬物は珍しい野菜を使っていて、週替わりでツナとか他の具も楽しめます。ディナーは京都の中心地にある**「お皿とスプーン」**に行けば、京野菜の上品なイタリアンが楽しめます。大阪では北浜の「belo」がとても美味しくてお手頃です。北浜の東横堀川というゾーンは、そんなに高くなくてお洒落なお店がたくさんあります。（黒木）

「滋賀県高島市」がお薦めのエリアです。大阪から北上して1時間くらい行った辺りですが、ここまで来ると人が少なくていいんです。ここでは水上でしか人に会わないんです（笑）。琵琶湖でサップをやっている人くらいで。白鬚神社の大きい鳥居が水上にあることでも有名です。**「マクドナルド庄内店」**（大阪府豊中市）は「日本で一番美味しいマクド」ということでバズったお店です。メニューは他のお店と同じでも、特別に美味しく、トレイの置き方が日本一キレイらしいんです。新大阪駅にある焼肉屋さんの**「松屋」**もお薦めですね。（香山）

私も**「グラングリーン大阪」**は好きです。梅田の新名所といっていいと思います。個人的には梅田での食事の後に、「うめきた公園」の芝生でのんびり過ごすのが最近の定番の過ごし方になっています。**「蕎麦 文目堂（あやめどう）」**は、谷町六丁目の路地裏にある古民家を改装したお店で、ミシュラン一つ星のお蕎麦屋さん。雰囲気も素敵で、お蕎麦や一品料理がどれも美味しく、通いたくなるようなお店です。大阪はうどんだけではなく、お蕎麦も美味しいお店が多いと思います。（福井）

フリートーク＆打ち上げ

フリートークでまず意見が挙がったのは、会場不足問題でした。

キョードー大阪・川下　大阪で足りないのはアリーナですね。ホールももっと必要だと思います。

清水音泉・梶　会場の押さえは本当にしんどいですね。ホールやアリーナの土日祝日の会場出しが特に厳しいんですよ。ツアーのプランを1年前に伝えられても対応できなくて、3年前だったらなんとかできたのに……と思うことがよくあります。今、ツアーを組むと地方は土日開催がほとんどで、大阪でも早く埋まっちゃうので、なかなか押さえられない。「東京で平日でもお客さんが入っているのやったら、大阪も大丈夫」と言い聞かせて、なんとか平日に開催することもありますが、心配でお腹が痛くなります（笑）

伊神　平日でも集客は大丈夫じゃないかと思っても、物販の売上が違うそうです。

清水音泉・梶　500～800キャパの会場、ライブハウスも不足しています。うちがよく使っていたumeda TRAD、ユニバースといった会場がなくなり困っています。梅田クラブクアトロだと小さいけど、なんばHatchだとちょっと大きすぎるというアーティストがかなりいるので、どうしようかと。GORILLA HALL OSAKAができて、少し気が楽になりました。

伊神　ACPCへの希望・意見がありましたら聞かせてください。

キョードー大阪・秋山　入社1～3年目の若手だと、ACPCが自分達にとってどういう存在なのか、見えづらいとは思います。例えばハラスメントの問題でも、ACPCでは色々な形でセミナーなどを行ってくださっていますが、もし、実際にそういうことが各社で起きた時に、ACPCがどんな対応をしてくれるのか、そこまでは把握できないところがあります。

伊神　貴重なご意見をありがとうございます。ACPCの役割として、今、コンサート業界でどんな問題が起きていて、それを会員社の皆さんに示すことは重要で、例えばハラスメントについてであれば、こんな言動はハラスメントに当たりますと、会員社の皆さんに注意を喚起する立場なんですね。ですから、実際の業務における対応は個社で行っていただくことになります。とはいえ、個社で対応が滞る場合はどうするのかという問題もありますので、より丁寧に、注意しながら各社の皆さんと連携をとっていきたいと思います。働く人達にとってはストレスも多い業界ではありますので、そこをどう緩和するのか、解消するのかをACPCでも考えていきたいと思いますし、働きがいのある業界になればいいですね。

懇親会の会場は扇町駅近く、北区野崎町の「一（はじめ）」。打ち上げの定番店でもあり、カウンターに並ぶ、おばんざいの大皿料理がどれも美味。「大阪の赤提灯」が堪能できます。中でも「スパゲティーサラダ」は人気の逸品とのこと。ACPC事務局から参加の田村華奈子、尾花理子（本誌担当）、中村ゆき（著作権担当）を含めた交流の後、中締めとなりました

ACPC関西支部会の歩み

2022年に設立されたACPC関西支部会は、関西拠点の正会員社と放送局や会場を含む賛助会員社により構成されています。上田博之会長が「以前はライバルでもあるプロモーター同士が情報共有をするなど考えられませんでしたが、今はそんな時代ではありません。当たり前のように助け合い、共通の課題に対応しています」と語る関西支部会の歩みを、「伊神が行く！ 関西編」の掲載を機に振り返ってみました。

2022年

- 4/1 ACPC関西支部会発足会（ANAクラウンプラザ大阪）
- 4 大阪府 府民文化部、大阪市 経済戦略局へ発足報告のため表敬訪問（以降随時訪問）
- 5/12 関西舞台テレビテクノアンドアート協同組合（関舞協）関西支部会が特別会員に
- 6 ACPC基礎調査（2021年度）大阪府・大阪市へ報告
- 7 大阪文化芸術創出事業 活動支援補助金 ※2021年度予算拡張、2022年度7-12月会場費支援
- 10 ACPC基礎調査（2022年度上半期）、ぴあ総研統計をもとに行政等へコンサート業界の現状についての資料提出
- 10 「大阪来てな！」キャンペーン（大阪の観光資源を活かした集客・周遊事業）への協力

定例会議は毎月開催（2022年11月撮影）

- 10/15～23 大阪城夢祭（大阪城音楽堂他）共催：関西支部会各社
- 10/15～16 Chillin' Vibes 2022（大阪城西の丸庭園）共催（実行委員会）：関西支部会
- 10 本誌「A.C.P.C. navi」関西官公庁、大学等へ発送しACPC周知活動（以降も継続）
- 11/5～6 大阪文化芸術創出事業「大阪"秋の謡会"二〇二二」（大槻能楽堂） 協力：関西支部会
- 12/7～8 MICE EXPOに参加

2023年

- 1 ACPC理事会にて、関西支部会参加の新規賛助会員社を承認 大阪城ホール
毎日放送 朝日放送テレビ 関西テレビ
朝日ビルディングフェスティバルホール
神戸国際会館、関西支部会へ参加
- 2/2 関舞協 賀詞交換会出席
- 3/8 音響テスト（万博記念公園）
- 3/24 ACPCハラスメント対策セミナー・JASRAC講話（フェスティバルタワー）
- 6 ACPC中西会長、鏡専務理事、大阪市面談
- 6 大阪府・大阪市・万博推進局 面談
- 6 ACPC理事会にて、関西支部会参加の賛助会員社を承認 大阪国際会議場
- 7 大阪文化芸術創出事業 活動支援補助金の2023年度予算継続、2023年7～12月会場費支援
- 8 文化庁・大阪府市「ライブ・エンタテインメント 関西エリア市場規模推移（2012／2019／2022年）」提出
- 8 ACPC基礎調査（2022年度）大阪府・大阪市へ報告
- 9/8～9 文化庁京都移転記念事業「きょう ハレの日」（ロームシアター京都 他）制作運営：関西支部会
- 11/18～19 大阪国際文化芸術プロジェクト「OSAKA DREAM LIVE 2023 -autumn-」※学生無料招待イベント（大阪国際会議場メインホール／約5,000名動員）企画制作：関西支部会
- 12/9～10 大阪音楽大学イベント（ROCK-TOWN／約250名動員）協力：関西支部会

2024年

- 1 神戸アリーナ建設現場視察
- 2/13 大阪城ホール安全対策会議（在阪各プロモーターが出席）
- 2/15 関西地区のアリーナ建設に関する声明文を発表
- 2/24～25 大阪国際文化芸術プロジェクト「春の謡会2024」（大槻能楽堂／約800名動員）協力：関西支部会
- 2 大阪万博記念公園 音響測定に関する報告会（各主催プロモーター出席）
- 3/5～6 障がい者対応セミナーを大阪会場で実施
- 4 「大阪府東部地区1.5期開発方針（案）」に対する府民意見等への提言、各社パブリックコメント申請
- 4 大阪府、公立大学、大阪市会議員等、森ノ宮アリーナ関連関係者面談
- 5 大阪府・大阪市訪問 ACPC基礎調査（全国版・大阪府版）・ぴあ総研統計報告
- 5 ぴあ総研シンポジウム視察
- 6/3 大阪都市計画局訪問
- 8 大阪市 関東・関西アリーナ公演統計提出
- 8 京都アリーナ関心表明提出
- 9/20 YTV「Grooving Night」（オリックス劇場）視聴覚障害鑑賞サポート 協力：関西支部会
- 箕面市立文化芸能劇場、新規賛助会員社に
- 10/12～14、19 EXPO ART&MUSIC WEEKEND（万博公園もみじ川広場）
- 10/13 万博開幕6ヶ月前イベント（大阪市長他参加）協力：関西支部会
- 11/27～28 MICE EXPO（インテックス大阪）後援：ACPC
- 12/11 神戸市訪問 同席：神戸アリーナ
- 12/12 経済産業省面談
- 12/21～22 大阪音楽大学イベント（ROCK-TOWN）協力：関西支部会

2025年

- 1/18～19 大阪国際文化芸術プロジェクト 春の謡会2025（大槻能楽堂）協力：関西支部会
- 1 One Bright Kobe、新規賛助会員社に
- 2/1～2 大阪国際文化芸術プロジェクト TURNT UP OSAKA－DANCE＆MUSIC－

本誌47号には関西支部会の紹介記事が掲載。上田博之会長を中心に写真左が大山賢一副会長（夢番地 取締役大阪オフィス）、右が齋藤誠副会長（キョードー大阪）

（COOL JAPAN PARK OSAKA WW ホール）協力：関西支部会

・2/8　大阪国際文化芸術プロジェクト 名曲コンサート（フェスティバルホール）協力：関西支部会

・2/9　大阪国際文化芸術プロジェクト BEST HIT RADIO CONCERT（フェスティバルホール）　協力：関西支部会

・2/26　ACPC カスタマーハラスメント対策セミナー（大阪会場）各社参加

・大阪府市へ ACPC 基礎調査 2024 年上半期（全国版・大阪府版）、ライブ・エンタテインメント白書を提供

・5/18～22　MUSIC AWARDS JAPAN 2025（ロームシアター京都他）運営協力：関西支部会

・6　OSAKA MUSIC EXPO 2025（大阪城ホール）主催：関西支部会（関西支部会構成団体：FM802、キョードー関西、グリーンズコーポレーション、サウンドクリエーター、夢番地）

・6/4　KOBUKURO LIVE in OSAKA 2025「Let's meet at the live show!」

・6/5　OSAKA MUSIC LOVER -PASSION-

・6/6　OSAKA MUSIC LOVER -LIVE TO THE WORLD- supported by アサヒスーパードライ WITH MASSIVE BEATS OSAKA

・6/7　OSAKA MUSIC LOVER -young hopeful- supported by 紀陽銀行 WITH REQUESTAGE

・6/8　OSAKA MUSIC LOVER -Everyone Lively-

・7/21　大阪音楽大学オープンキャンパス

・7/26～27　大阪ウィーク夏「OSAKA MUSIC LOVER -JAPANIMATION ROCKS-」（EXPO ホール）企画制作：関西支部会

・9/2　ユニバーサル対応意見交換会（森ノ宮ピロティホール）

・9/14～15　OSAKA MUSIC LOVER LIVE EXPO 2025 大阪ウィーク秋（EXPOアリーナ）企画制作：関西支部会

最新活動報告

ユニバーサル対応意見交換会を開催

ACPC 関西支部会は、2024 年 4 月より施行された「障害者差別解消法の法改正（合理的配慮の提供義務化）」について、プロモーターやホール担当者が直面した事象に対してどの様に対応したか、何が課題として残っているかを共有し検討するために、9 月 2 日に森ノ宮ピロティホール（サブホール）にて「ユニバーサル対応意見交換会」を開催しました。

当日は共通の解を求めるのではなく、情報共有の中で気付きを増やし、今後の対応に活かしていくことを主な目的としましたが、内容は多岐にわたり、障害者への配慮提供事例だけでなく高齢者や妊婦に対する配慮の事例なども紹介されました。

16 社約 55 名が一堂に会し活発な意見交換が行われました

帰ってきた

TALKING BLUES

Vol. 41

文：鏡 孝彦 ACPC 専務理事
（グリーンズコーポレーション代表取締役社長）

クールで熱い男と未来へ

やりました～！　ドジャース！　WS 連覇!!　ヤマ～！　ローキ！　オォ～タニサ～ン！　クールで熱い男たちの快挙です。ACPC でクールで熱いと言えば、この人！　伊神が来たー！　大阪に!!　本号で「伊神が行く!」の関西編が紹介されていると思いますが、グループインタビュー～懇親会～2 次会と熱い男を中心に若い関西のスタッフの方達とコミュニケーションを深めておりました。いいですよね～、同じ思いや悩みを持った方達が、相互理解を深めつつ、副会長にも想いをぶつけていく感じが。これから中国四国九州沖縄地方にも副会長は、行かれると思いますので、その際には、皆様の熱いキャッチボールをお願いします。

あついと言えば、この号が出る頃には、閉幕していると思いますが、賛否両論が有った「大阪・関西万博」。視察も含めて 4 回ほど出向きましたが、どの日も暑い！　そして、人が多い。開幕前の私自身の予想を超えた入場者数で、ほんまに驚いていますし、何より、ここまでミャクミャクが人気者になるなんて、思いもしませんでした。不気味から可愛いに変わるなんて。ミャクミャクがデザインされたストリートピアノも登場しました。これは、閉幕後もグッズ販売が、まだまだあるかな？ なんて。閉会式のテーマは、「For the futures」です。MUSIC AWARDS JAPAN も私達の音楽・エンタテインメントの「For the futures」です。是非！ 若い方達には、積極的に関わっていただきたいです。ご自身の表現やアーティストやクリエーターとのコラボなども含め、音楽コンテンツを創りだして下さい。先日、英国の MUSIC MISSION に参加しましたが、スターマー首相に代わって、より音楽コンテンツに予算を投下していく事になったという話を聞きました。日本の音楽も一時期に比べると幅広く多くの国々に聞かれています。新たなチャンスだと思いますので、楽しい創造を宜しくお願いします。

そうそう、たむぴす！ クールで熱いのは、いもっこアイスやねぇ。

オンライン座談会 ONLINE TALK

全国会員社 担当業務別ミーティング

著作権担当者座談会

収録日：2025年10月20日

毎号、全国会員社で同じ業務を担当する皆さんをオンラインで結んで行っている座談会、今号は著作権担当の皆さんに参加いただきました。著作権（演奏権）使用料の申請業務をはじめ、いくつかの業務を兼任し、ACPC事務局とも日常的に連携する4名の方のリアルな声をお届けします。
また座談会には、オブザーバーとしてACPCの田山順一常務理事も加わりました。

藤原沙希
マウントアライブ（北海道）／2018年入社

山田実咲
ネクストロード・プロダクション（東京）／2013年入社

三浦布由子
ホットスタッフ・プロモーション（東京）／2013年入社

栗生亜矢子
ページ・ワン（大阪）／1990年入社

調べることに喜びあり

――入社するまでの経緯と、現在の業務をお伺いしたいと思います。

藤原　前職の医療事務から転職し、2018年に中途採用で入社しました。医療事務で働いていた頃も、ライブに行くことが好きで、たまたま求人広告を見つけ、応募して受かりました。今は券売と移動宿泊、デスク業務を主に行っていて、その中で著作権も担当しております。

山田　通っていた音楽系の専門学校に求人募集がきていて、2013年に入社しました。著作権とチケットの業務を担当しています。著作権関連では曲目表の確認などですね。もともとはイベントの企画や制作に興味があったのですが、今は著作権やチケットに関わる仕事にやり甲斐を感じています。

三浦　大学時代からライブが大好きで通っていたので、コンサートに関わる仕事をしたいと思っていました。新卒では一般企業に入ってすぐ辞めてしまったのですが、その後タワーレコードで1年間アルバイトをしているうちに弊社の求人を見つけ、2013年に中途で入社しました。入社6年目くらいで産休・育休を取得して、1年4ヶ月後に復帰。もともとデスク業務を行っていたのですが、復帰して1年くらい経ったタイミングで著作権も担当するようになりました。今もデスク業務と著作権申請業務を兼任しています。

栗生　音楽関係の仕事に就きたいというぼんやりとした希望しかありませんでしたが、通っていた学校の就職課の先生から「こういう会社があるので、どうですか」とお話をいただいて、面接に行き、1990年くらいに入社しました。現在は著作権業務だけではなく、経理や配券、電話対応などを担当していて、現場に出ることもあります。

――現在、担当されている業務で特に難しいと感じる点、逆にやりがいを感じる点がありましたら教えてください。

藤原　難しいわけではありませんが、手間がかかるのは弊社のフェス、JOIN ALIVEの時に一応セットリストを事前にいただいたりするのですが、やはりフェスなのでお客さんに合わせて実際の曲目が変わってしまったりします。終わってから演奏曲目の申請までの時間で、正確な曲目を確認していく作業が大変になるのは、毎年のことではあります。とはいえ大変さばかりではなくて、演奏曲の作詞・作曲者を調べていくと「あ、この人がこの曲もつくっているんだ」とか、「この作曲者の曲は以前、別のアーティストも演奏していたな」とか、色々な事実が分かっていく過程は楽しいです。

山田　弊社が取り扱う公演のうち、地下アイドルの大きなイベントでは、JASRACの登録がない曲が歌われることが結構あるんです。そういった場合の作詞・作曲者を確認する作業は骨が折れますね（笑）。ネットで検索して集められる情報は集めますが、判明しない時はアイドルの運営の方に直接連絡をして、情報を戻していただくことになるので時間がかかる面はあります。それでも例えばバンドが新曲を披露した時に、まだ発表されていないクレジットを知るこ

藤原さんが勤めるマウントアライブが主催した「JOIN ALIVE 2025」（北海道岩見沢市・いわみざわ公園／2025年7月19日～20日）

山田さんが勤めるネクストロード・プロダクションが運営に参加した「赤レンガスプラッシュ祭」(神奈川県横浜市・横浜赤レンガ倉庫イベント広場 B ／ 2025 年 8 月 28 日)

とができるのは、ちょっとうれしかったりします。

三浦　セットリストの中にカバー曲があると、曲目表に作詞・作曲者が書かれていない場合もありますよね。アーティスト側に確認すれば早いんですけれど、こちらで調べて見つけることに達成感があるんです(笑)。イベントやフェスで出演者が多いと、調べるのは物理的に大変だったりしますが、アーティストの役に立てているな、還元できているなという実感もありますね。

栗生　弊社ではキャリアの長いアーティストの公演が多く、事前にセットリストを提出いただくと「あ、このヒット曲が聴けるんだ」と分かって、それが私の密かな楽しみになっています（笑)。その曲までにはがんばって窓口業務を終えて、場内へ聴きに行こうと思いますね。

分担とACPCの申請システム

――現在の業務には、どんな改善点があると思いますか。

藤原　公演数がそれほど多いわけではないので、私 1 人で曲目の確認から提出まですべてを行っていたのですが、通常のデスク業務が手いっぱいになってしまい、別のスタッフにも作詞・作曲者の調べなどを手伝ってもらって、業務を分担するようになりました。弊社には私を含めて 3 名のデスクがいるのですが、全員 ACPC の著作権申請 WEB ページにはログインできるようになっていて、私に何かあった時でも業務ができる状態にはしています。

山田　弊社は著作権担当が私ともう 1 名いるのですが、私は曲目のまとめ、作詞・作曲者の確認から提出までの業務を主に行っていて、もう 1 人は「何月何日にどの公演がある」という公演前の申請を担当しています。公演の精算をすぐに行いたいという担当者もいるので、弊社でも社内全員が ACPC の申請ページにログインできるようになっていて、必要があれば公演担当者自身が書き込みできるようにしています。

三浦　私も曲目表を 1 人で全部まとめるのは無理だということになり、少し前から一緒にまとめてくれる方と分担できるようになりました。曲目表については、「プロダクションや制作会社に作詞・作曲者も事前に記入してもらえばいいんじゃないか」という話も出るのですが、当然プロダクションの方もお忙しいと思いますので、今のところ私達でなんとかしようと考えています。

――曲目表のフォーマット統一という意見を聞くこともありますが、実際にはどうでしょうか。

三浦　今、現場で使われているものはアーティストごと、公演ごとに違っていて、ごく稀に作詞・作曲者も記入してくださっている場合もありますが、基本的には曲名や演奏時間などが中心です。

栗生　私もほぼワンオペで行っている状態で、社長にはすぐ報告するという流れをとっていますが、毎年同じアーティスト、同じ会場での開催が多いので、なんとか対応できている感じです。現場の本数が増えたり、新しいアーティストを担当したりすることになると、ちょっと厳しいかもしれません。

――著作権業務では、昨年より ACPC 独自のシステムでのやり取りが始まりましたが、使いやすさはいかがですか。

藤原　今のシステムになってから、使いやすくなっているので助かっています。分からないことがあっても、ACPC の方にチャットですぐに聞けて、返信もかなり早くいただけるので、ありがたいです。

――皆さんにとっても使いやすくなっていますでしょうか。

山田・三浦・栗生　使いやすいです。

コロナ禍以降の課題

―― コンサート業界全体を見渡して、課題などがあれば教えてください。

藤原　私は入社してから 1 年くらいでコロナ禍に入ってしまって、コロナが明けた今に至って考えるのは、コンサートに足を運んでくれるお客さんが完全には戻ってきていないのかなと。もちろん人気アーティストのチケットは売り切れるのですが、全体的には厳しい面があると思います。物価も上がって、チケット料金も上がっていますので、若いお客さんが気軽に行けるようなライブが少なくなっているのかもしれません。JOIN ALIVE は今年、ほぼ完売状態だったのですけれど、購入年代を見ると、30 代、

三浦さんが勤めるホットスタッフ・プロモーションが主催／企画・制作した「Slow LIVE '25 in 池上本門寺」(主催は他に J-WAVE、ニッポン放送／東京都大田区・池上本門寺・野外ステージ／2025年9月6日・7日　※ 9月5日は台風による荒天で公演中止)

栗生さんが勤めるページ・ワンが主催した「フォレスタコンサート」（主催は他に BS 日テレ／大阪市北区・ザ・シンフォニーホール／ 2025年12月25日）画像提供：フォレスタコンサート友の会

40代の方が多かったですね。20代も少なくないですが、10代、20代の方にもっと来ていただくことが目標です。

山田　若年層が減った分、年齢の高い方からの「初めてライブに行きたいのだけれど、チケットを取るにはどうしたらいいか」という問い合わせが増えているように思います。コロナ禍以降、チケットぴあ、ローソンチケット、イープラスで電話によるチケット受付がなくなってしまったので、ネットを使えない方が困っている状況もあるのではないでしょうか。高齢層にももう少しチケットが取りやすいサービスができると、ライブに足を運ぶハードルは低くなると思います。

三浦　この物価高でチケット代が上がった対策として、学生向けの席を用意したり、チケット代をキャッシュバックしたりする公演が多くなっている気がします。逆に VIP チケットや通常の指定席の値段にプラスで払うとアップグレードできる券種も、最近はよく見かけるようになりました。これからもそういう試みが増えてくるのかもしれないですね。

栗生　海外のお客さまから日本でコンサートを見たいとメールをいただくのですが、個人情報を登録する段階でかなり難しく、買いづらい状態が続いているようです。私がアジア圏のコンサートに行きたいと思っても、登録する段階ではじかれてしまい、代行業者に頼みがちなので、そこがもう少しスムーズにできるといいなと思います。

田山常務理事　著作権を担当されている方は、社内でも人数が少ない上、公演担当者が曲目表を提出しなければ仕事が進められない立場なので、もっと不満や問題点があるかと思っていましたが、皆さん前向きで、とても心強く感じました。著作権業務の根本である権利者への還元に携われることにやりがいを感じている部分も素晴らしいです。会社全体、業界全体の流れをいちばん身近に感じられているのは、著作権申請やチケット業務に携わる皆さんたちです。次のステップとしては、利用されている会場の傾向、チケット代の変化、公演ジャンルの多様化…など、著作権申請から得られる様々な知識を他にも活かして力を発揮していただければと思います。

韓国文化体育観光部／韓国コンテンツ振興院主催「KOREA SPOTLIGHT 2025@JAPAN」をACPCが後援

広がる日韓ライブ交流の可能性と見えてきた課題

韓国文化体育観光部／韓国コンテンツ振興院（KOCCA）が主催、ACPC が後援する「KOREA SPOTLIGHT 2025@JAPAN」が開催。東京は10月6日にKOCCA CKL TOKYO にてフォーラムやトークセッション、7日に Shibuya Stream Hall にてショーケース、続いて9日に大阪なんば Hatch でもショーケースが行われました。

本イベントに先がけ、2024年9月24日から26日の3日間、韓国・ソウルでは世界各国の音楽関係者が集う「MU:CON2024」が開催されましたが、ACPC から清水直樹常務理事、長井延裕常務理事らが参加。韓国大衆音楽公演産業協会（MCIAK）との協力関係の構築に向け、MOU（基本合意書、了解覚書）を締結しました（本誌 VOL.53 で既報）。その流れを受け、今回の「KOREA SPOTLIGHT 2025@JAPAN」でも、清水・長井両常務理事が6日の日韓交流セッション1「韓日音楽ライブ市場の現在と未来～課題共有からグローバル展望へ～」に登壇。イ・ジョンヒョン MCIAK 会長、シン・ウォンギュ同副会長と語り合いました。

MCIAK のお二人から、日本アーティストの韓国公演は2024年から2025年にかけてバンド系を中心に57%増加した現状が伝えられました。一方で課題として挙げられたのがビザの問題。公演のために日本アーティストが入韓する際、公演規模にかかわらずビザの取得に20～30万円の費用がかかってしまうそうです。ビザ問題に対しては、清水常務理事が ACPC内の招聘プロモーターの連携組織、インターナショナル・プロモーターズ・アライアンス・ジャパン（IPAJ）において日本への入国申請手続きの迅速化を当局に働きかけた経験をもとに、日韓の事業者間で協力して手続き迅速化を図っていこうと呼びかけました。国を越えて公演を実施したり、コンテンツを輸出するためには国／行政のバックアップが必要になります。韓国コンテンツ振興院には世界中に25拠点（KOCCA 東京ビジネスセンターもその一つ）があることを踏まえると、セッションの最後に長井常務理事が語った「日本としても文化輸出の海外現地拠点、ネットワークを官民連携にて構築することが必要です」との言葉が日本側参加者に強く響いたはずです。

登壇した長井常務理事（左）、清水常務理事。その他セッションは「韓日アーティストの新たな成長と拡張：チャート・現場から見る未来」などが行われた　写真提供：KOCCA

連載 ACPC寄附講座通信

今号より、発行時期に合わせて各大学で実施された「ACPC 寄附講座」を紹介する連載が始まります。ACPC では公益事業の一環として各地の教育機関と連携し、人材育成支援を行っています。その中心となる取り組み、大学への寄附講座では、コンサートやスポーツなどのライブ･エンタテイメントをはじめ、様々なコンテンツ･ビジネスを学べる講義を提供しています。第 1 回となる今号では、これまで開催されてきた講義を一覧にまとめ、直近の講義例もお伝えします。

大学名	講座名	所在地	実施年度	実施期間
東京工科大学	ライブ･エンタテインメント論	東京都八王子市	2007 年～継続中	9月～1月
昭和音楽大学	ライブビジネスと社会	神奈川県川崎市	2011 年～継続中	9月～1月
近畿大学	プロデューサー論	大阪府東大阪市	2016 年～継続中	4月～1月
筑波大学	ライブ・コンテンツ論	茨城県つくば市	2018 年～継続中	4月～6月
青山学院大学	青山スタンダード：スポーツ･エンターテイメント･ビジネス	東京都渋谷区	2020 年～継続中	9月～1月
群馬県立女子大学	音楽産業と文化・社会	群馬県佐波郡	2020 年～継続中	9月～1月
大阪音楽大学	ミュージックビジネス演習Ⅳ / ライブ･エンタテインメントビジネス論	大阪府豊中市	2023 年～継続中	9月～1月

東京工科大学

9月23日　吉岡英樹〈東京工科大学講師〉
『オリエンテーション』

9月30日　笹井裕子〈ぴあ株式会社執行役員 / ぴあ総合研究所株式会社 取締役所長〉
『集客エンタメのこれまでとこれから』

ぴあが情報誌の発刊からチケット販売、コンテンツの創出や自社の会場運営等へと業務の幅を広げ、一気通貫のサービスを提供できる存在へとなっていった歴史を入口として、集客エンタメ産業（コンサートや演劇、映画、スポーツイベント等の興行を開催することで、鑑賞・観戦を主な目的とした観客を、その興行場所に集める産業）のこれまでとこれからについて、ぴあ総合研究所のデータを基にご説明いただきました。

10月 7日　水谷伸吉〈(一社) more trees 事務局長〉
『文明が滅ぶように森もなくなってしまうのではないか
— 森と人をつなぐ新しいエコロジー—』

10月21日　後藤秀樹〈合同会社 OKUTAGON 代表社員〉
『アニメ業界のビジネス構造とグローバル展開』

10月28日　荒川祐二〈(株) NexTone 代表取締役 coo〉
『著作権管理事業からみた音楽産業』

昭和音楽大学

9月25日　鬼頭隆生〈ACPC 事務局〉
『ガイダンス・ライブ市場の現状と課題』

10月2日　中西健夫〈ACPC 会長〉／ゲスト：**山本彩**〈シンガーソングライター／写真右〉
『ライブ産業の歴史と現状』

中西会長がライブ･エンタテインメント市場の現状や、「MUSIC AWARDS JAPAN 2025」開催に至るまでの経緯・意義などについて語りました。

続いて、スペシャルゲストとしてシンガーソングライターの山本彩さんを迎え、学生からの質問をもとに対談を実施。楽曲づくりへの思いや今後の展望などが語られました。

最後に山本さんが「失敗を恐れず挑戦し続け、何度も失敗することが大切である」と伝えると、学生たちから大きな拍手が送られました。

撮影：富谷英次／写真提供：昭和音楽大学

10月 9日　森川卓夫〈昭和音楽大学客員教授〉
『楽演祭について／音楽著作権ビジネスの概要』

10月16日　山口三平〈元(株)ソニー･ミュージックエンタテインメント NY 駐在〉
『アメリカの音楽ビジネスとその仕組み』

10月23日　澄川龍一〈アニメ音楽評論家、元リスアニ! 編集長〉
『アニメソングの発展、人気アニソンの仕掛け方、アニソンとライブの関係など』

10月30日　市川幸介〈(株)テレビ朝日　総務局〉
『テレビからはじめよう！ エンタメの仕事』

群馬県立女子大学

10月9日　鬼頭隆生〈ACPC 事務局〉
『ライブ市場の現状と課題』

第２回の講義に ACPC 事務局より鬼頭隆生が登壇し、ACPC の概要や来歴、主な事業内容を紹介しました。ACPC を構成する全国各地のコンサートプロモーターが、ライブに関わる多様な事業者の中心的な存在となって多数のライブ・エンタテインメントを開催していることや、2024 年の ACPC 基礎調査データを元にライブ市場の現状をお伝えしました。別日には山崎隆広教授によるライブミュージック文化史についての講義が行われました。同大学には今後も定期的にゲスト講師の派遣を行います。

大阪音楽大学

9月30日　中西健夫〈ACPC 会長／写真右〉／
上田博之〈ACPC 関西支部会会長、ACPC 理事、大阪音楽大学 ミュージックビジネス 客員教授／写真左〉
『ライブ・コンサートビジネス』

10月14 日　Mikan Hayashi〈ゲシュタルト乙女 ボーカル・ギター／写真〉／
上田博之〈ACPC 関西支部会会長、ACPC 理事、大阪音楽大学 ミュージックビジネス客員教授〉
『台湾でのライブ状況と人気音楽の紹介、日本で活動する理由』

10月28日　荒木田由紀〈(株) ネルケプランニング 常務取締役 ネルケ WEST プロジェクト特命担当〉／
大山賢一〈ACPC 関西支部会副会長、大阪音楽大学ミュージックビジネス 特任教授〉
『舞台制作について／神戸セーラーボーイズの紹介』

ACPC 寄附講座以外の講義

近年は他団体様や他大学様で講義をさせていただく機会も増えており、
こちらでご紹介させていただきます。

京都産業大学「未来を拓く先輩たち（同窓会リレー講座）」

10月９日　中西健夫〈ACPC 会長〉
『ライブ･エンタテインメントビジネス』

一般社団法人日本音楽出版社協会 音楽著作権管理者養成講座

10月28日　中西健夫〈ACPC 会長〉
『ライブ･エンタテインメントビジネス』

コロナ禍以降、コンサート市場は ACPC 正会員が開催した公演だけで売上げ 6,000 億円、動員数 6,000 万人と V 時回復を遂げている現状を入口として、その要因を分かりやすく解説するとともに、市場の約７割が関東・近畿圏に集中していること、人手不足といった構造的な課題にも触れながら、今後の展望、グローバルな発信力を持つ MUSIC AWARDS JAPAN の意義などにも話題は広がり、デジタルな時代にチケットをギフトする事はできないだろうかという自身の想い、人の気持ちに寄り添った仕事をしていただきたいという受講者へのメッセージで講義を締めくくりました。

一般社団法人日本音楽出版社協会 電気通信大学寄附講座

10月30日　中西健夫〈ACPC 会長〉
『ライブ･エンタテインメントビジネス』

2025 年３月 22 日に日本でラジオ放送が始まってちょうど 100 年が経過したという話題を入口に、当日の講義では音楽産業のあゆみを 1950 年代の白黒 TV 登場といったトピックから順を追って解説した後、音楽産業全体の市場規模推移からライブ・エンタテインメント市場の活況へとフォーカスし、そこから日本人アーティスト×音楽産業の海外戦略、MUSIC AWARDS JAPAN の意義へと話題は広がっていきました。グラフや映像を交えての講義は分かりやすく、質疑応答のパートでは多くの学生の手が上がり中西会長と活発な意見交換が行われました。

次号では今号で紹介した大学に加え、青山学院大学や近畿大学での
寄附講座の内容もお届けする予定ですので、乞うご期待ください！

連載

ECSA Lounge

新設スタジアム・アリーナ関連の事項を中心にECSAより活動報告

活動報告

“Salon de ECSA #05” 実施報告

“Salon de ECSA とは…

エンタテインメント界とスポーツ界の情報交流を活性化することを目的とした、ECSAが主催するサロン形式の独自セミナー。エンタテインメント・スポーツを主軸としたテーマに基づき、会員社、及び関係団体宛にクローズドの形式で情報提供・ネットワーキングの機会を創出しています。

“Salon de ECSA #05” エンタテインメント業界動向（2024-2025）

2025年度の第1回目は、ライブ・エンタテインメント市場動向について、ACPC基礎調査に基づく情報共有を実施。2024年の市場概況及び2025年見通しにつき、会員社・関連団体からの希望者向けに、詳細の解説を行いました。

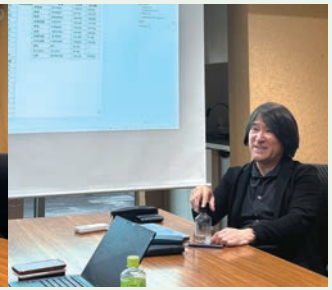
詳細

日　時：8月27日（水）16:00～17:00
会　場：ECSA事務局
〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南 1-21-18 恵比寿南ビル
※ オフライン・会場実施のみ
テーマ：昨年度までのエンタテインメント業界動向を踏まえた今後の見通し

概要

ACPCによる2024年のライブ・エンタテインメント市場調査データを解説。これまでの業界動向を踏まえた、今年度の見通しについて解説を行う。

スピーカー：ECSAプロジェクトマネージャー / ACPC 常務理事　田山順一



ECSAに関する
お問合せは
こちらより
※ ECSA 事務局

オンラインカジノ違法性周知に関する広報啓発活動に対して警察庁より感謝状

ライブユーザーへの悪影響を危惧し、安全な社会づくりに貢献

近年、オンラインカジノが社会問題化しています。スマートフォンやパソコンから気軽に行うことが可能であり、アクセス数の増加や依存症の懸念が顕在化しています。海外で合法的に運営されているオンラインカジノであっても、日本国内から接続して賭博を行うことは「賭博罪」などにあたります。興味本位で手を染めてしまい、違法だと認識していない人も多く、とりわけライブ・エンタテインメントの市場を支える若年層のユーザーへの悪影響が危惧されます。

警察庁では、広報啓発用ポスターや動画等を用いてオンラインカジノに係る賭博事犯の違法性を周知する各種取り組みを行われており、最近では広く社会に呼びかけるため、各民間企業とともに戦略的かつ効果的な広報啓発を推進されています。弊会も協力要請を受けて広報啓発活動を行ってまいりました。

このたび、これまでの協力に対して警察庁から感謝状が贈られ、中西会長・伊神副会長が拝受いたしました。ホームページ上でのリンクバナー掲載、各地公演会場でのポスター掲出等、会員の皆様にお力添えをいただき、誠にありがとうございました。

政府は制度改正を進めており、改正ギャンブル等依存症対策基本法が令和7年9月25日に施行されました。主な改正内容は、オンラインカジノサイト等掲示や同サイトへの誘導行為の禁止、国や地方公共団体にオンラインカジノが禁止されている旨の周知徹底を義務化したことなどです。

今後もACPCでは関係機関と連携を図りながら、健全なライブ・エンタテインメント業界の発展と安心・安全な社会づくりに貢献してまいります。会員の皆様におかれましても、引き続きオンラインカジノ問題に対する正しい理解の促進と、啓発活動へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

参考サイト

警察庁「オンラインカジノを利用した賭博は犯罪です！」

政府広報オンライン「オンラインカジノによる賭博は犯罪です！広告・宣伝することも禁止に！」

左から
伊神副会長、中西会長、
警察庁保安課・永山課長（当時）

➤ 令和7年度「ACPC人材育成研修会」開催報告

2025年10月27日～28日に「ACPC人材育成研修会」を開催いたしました。
初日は10月3日に開場したばかりのTOYOTA ARENA TOKYOでの会場視察や、日本トップリーグ連携機構 代表理事会長 川淵三郎様をゲストにお迎えした中西会長との対談や共通セミナーを実施しました。その後、品川プリンスホテルに会場を移してボウリング大会や夕食会を開催し、参加者同士の交流の輪が広がる場となりました。

2日目は、午前・午後に分かれて選択制セミナーを実施しました。それぞれに関心のあるテーマを選び、学びを深める時間となりました。

2日間を通じて多くの皆さまにご参加いただき、誠にありがとうございました。
会場視察や対談、セミナーなど研修会の詳細については、次号（第58号）に特集記事として豊富な写真とともに掲載いたします。ぜひ、ご期待ください！

【日程・会場】 日程：2025年10月27日（月）～28日（火）
会場：TOYOTA ARENA TOKYO／品川プリンスホテル

TOYOTA ARENA TOKYOでは会場視察や会長対談、品川プリンスホテルでは各種セミナーなどが行われました　撮影：小山昭人（FACE）

➤ 新規加盟社紹介

■ 正会員

2025年11月入会 ㈱読売新聞東京本社事業局スタジアム・アリーナ部

■ 賛助会員

2025年9月入会 ㈱WONDER LIVE
2025年11月入会 ㈱MIXI

※2025年11月時点の会員数は正会員81社、賛助会員137社です。

➤ コンサートプロモーターズ協会　正会員一覧

北海道

㈱ウエス／㈱キョードー札幌／㈱道新文化事業社／
㈱トラスト企画クリエート／㈱マウントアライブ／㈱ミュージックファン

東北

㈱エドワードライヴエンターテインメント／㈱キョードー東北／
㈱ギルドネクスト／㈱ジー・アイ・ピー／㈱ノースロード・ミュージック

関東

㈱アイエス／㈱iTONY ENTERTAINMENT／㈱アーツイノベーター・ジャパン／㈱アリノワ.／
㈲ヴィンテージロック／㈱ウドー音楽事務所／㈱エアーフラッグ／
エイベックス・ライヴ・クリエイティヴ㈱／㈱エニー／㈱エル・ディー・アンド・ケイ／㈱オデッセー／
オフィス・ゲンキ㈱／㈱キャピタルヴィレッジ／㈱キョードー東京／㈱キョードーファクトリー／
㈱キョードープロデューサーズ／㈱キョードー横浜／㈱クリエイティブマンプロダクション／
㈱グリーンルーム／㈱サンライズプロモーション／㈱スペースシャワーネットワーク／
㈱スマッシュ／全栄企画㈱／㈱ソーゴー東京／㈱チッタワークス／㈱ディスクガレージ／
㈱テレビ朝日／㈱ネクストロード・プロダクション／㈱バックステージプロジェクト／
㈱ハヤシインターナショナルプロモーションズ（HIP）／㈱ハンズオン・エンタテインメント／
㈱バンダイナムコミュージックライブ／㈱フジテレビジョン／㈱プロマックス／
㈱文化放送開発センター／㈱ホットスタッフ・プロモーション／㈱ポニーキャニオン／
㈱ミュージックリーグ／㈱モストプランニング／㈱ヤング・コミュニケーション／
㈱読売新聞東京本社事業局スタジアム・アリーナ部／㈱ライブエグザム／Live Nation Japan㈲／
㈱LIVE FORWARD／ライブマスターズ㈱／㈱Lucky FM茨城放送

北陸・甲信越

㈲エフ・オー・ビー企画／㈱キョードー北陸／㈱サウンド・ソニック／㈱スーパーキャスト

中部

㈱キョードー東海／㈱サンデーフォークプロモーション／㈱ジェイルハウス

関西

㈱梅田芸術劇場／㈱キョードー大阪／㈱グリーンズコーポレーション／
㈱サウンドクリエーター／㈱清水音泉／㈱ソーゴー大阪／
㈱ナウ ウエスト ワン／㈱阪神コンテンツリンク／㈱ページ・ワン

中国・四国

㈱キャンディープロモーション／㈱デューク／㈱ユニオン音楽事務所／㈱夢番地

九州・沖縄

㈱GAKUON ユニティ・フェイス／㈱キョードー西日本／
㈱ピーエムエージェンシー／㈱ビッグイヤーアンツ（BEA）

A.C.P.C. navi Vol.57 2025年11月発行
発行人：中西健夫／編集人：田山順一／編集：田村華奈子、尾花理子、鬼頭隆生／デザイン：嘉手川里恵／取材・構成：君塚太
発行所：一般社団法人 コンサートプロモーターズ協会　〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1-21-18 恵比寿南ビル
TEL.03-5768-1731　FAX.03-5768-1732